



進路検証のすすめ

4月1日から消費税があがりました。8%にあがる前に高価なものは購入しなくてはと3月には駆け込み需要が増えたと言われています。自動車や家電製品など注文が間に合わず、取得が4月以後になってしまうので諦めたという人も多かったようです。

我々はこうした高価なものを購入する時には、パンフレットを取り寄せ他社の製品と比べ、実際に見に行き店頭で確かめてみるなどの下調べをします。また長く使い続けられるか不明なので、一度使って試してみるということもします。例えば、自動車を購入する際には「試乗」をしないで買うなどという人はまずいません。デザイン・性能や評判はよいけれど自分の運転スタイルにはどうもじっくりこないというケースがあるかもしれないからです。

これを「人生の選択」に置き換えると、こうした「下調べ」や「お試し」は色々な機会で行うことができます。例えば、高校入試なら夏休みの「中学生の1日体験入学」で直接高校の先生の授業を受け高校生の先輩に質問することができます。大学の選択に関しても同様です。夏休みを中心に「オープンキャンパス」が実施され、大学説明会が何度も各地で開催されているので各自の進路の検証ができます。

しかしここで改めて考えて欲しいのが、見学会や説明会に参加するだけで進路の検証は十分なのかということです。こうしたイベントの参加者は受け身の姿勢で臨むことが多いです。質問ができるとはいえ、大半の時間は主催者のメニューに沿って全体的な説明を受けるだけです。ところが、大学は自ら学ぶ(学びのテーマを設定し探究する)ところなので、本来は自分独自の興味・関心を検証する機会が必要となります。この意味で「検証の主体性・個別性」が重要な鍵となるのです。

このためには、例えば、志望する学部のことをよく知るために専門に関する本(新書は入門書として有効)を読んでみる。できれば志望校の先生の書いた本や論文を調べて目を通してみることもお奨めです。また、大学のゼミがどんな活動をやっているのかを調べてみるのも一つの方法です。さらに、それを誰かと語り合う場があれば申し分ありません。人は考えていることを他者に語ることによって、自分の見通しがどの程度確かなものか客観的に知ることができるからです。

貴重な刺激を得て人生の方向を決定する4年間をどこで学ぶか。高額な授業料をどこに投資するかについて、この高校生活でじっくり検証してください。(文責:今井雅)

♪1年の窓♪

入学から1ヶ月が経ちました。高校生活に慣れて来た頃でしょうか。そろそろ、次の進路選択に向けての第1歩を踏みだしましょう。今回は進路を考える上でのポイントを紹介します。

①就きたい仕事を考える。連休中に保護者への職業インタビューをして働くことへのイメージができたはず。10年後社会人としてどんな風に生きていたいだろう。

②自分の興味・適性を知る。授業はもちろん、趣味や部活動など日常生活で楽しさを感じる瞬間から将来を考えてみよう。また、得意な分野を社会でどう生かせるかを考えてみるのも進路を見極めるポイントになります。

③学びたいことを考える。進学後の生活の中心もやはり学びの時間です。進学先で学ぶ内容は、高校までの教科・科目よりもはるかに多様で奥深い。自分はどんなことを学びたいのかをしっかりと考えておきましょう。(文責:谷)

♪2年の窓♪

先日の学年集会で、1年生は高校になれる期間、2年生は「実力をつける期間」という話をしました。2年生では、理科や地歴科目が本格化します。昨年度より自宅学習の時間増加が必要です。また、その内容についても計画を立てる必要があります。他方で、将来の目標を考える時間をしっかり持ちましょう。何になろうか思い浮かばない人は、昨年配付した『学部学科がわかる本』をまずは読んでみましょう。

【家庭学習計画を立てるポイント】

- ・帰宅時間や就寝時間、起床時間、そして自宅学習の開始時間を固定しましょう。
- ・自分の苦手な部分は「自分のわからなくなるところまで戻って」学習を行いましょう。
- ・少し余裕がある計画にし、まずは続けることが出来るものにしましょう。
- ・計画通り行うことできなかった学習を行う返済日を設けましょう。(文責:竹腰)

♪3年の窓♪

昨日3年生最初の模試、全統マークが行われました。5月は6日の全統マーク、24日の全統記述、31日の進研マークと、1カ月で3度の模試が行われます。「模試多すぎ〜!」という声が聞こえてきますが、せっかく受ける模試。作戦をたてて臨み、事後処理は完璧に。受けっぱなしなんてもつての他です。

模試を単に「自分の今の力を試す」感覚で受けていませんか。結果が返ってきて一喜一憂し、そこで終わっていませんか。模試の問題は練りに練られたもの。作成には大変な労力が費やされているのです。そんな素晴らしい問題冊子、解説冊子、放置しては大損!! 全て完ぺきに解き直すことはもちろん、自分の弱点、補強すべき点を把握するのに活用しましょう。詳しく丁寧な解説は隅から隅まで読むこと。

「模試で力を試す」のではなく、「模試で力をつける」!

模試で中々結果が出せない、思うように偏差値が上がらない、頭を抱えている人は多いと思います。でも今はよくよしない。結果をみて腐らない。模試結果の数字にとらわれず、その中身から多くのことを得てほしい。力にしてほしい。たくさんの模試を受けるということは、それだけ力をつけるチャンスが増えるということです。

(文責:渡部里)

○文系の窓○

みなさんは、「博物館」と聞くとどんな印象をもつでしょうか。東京国立博物館、奈良国立、京都国立……。どちらかというとき堅苦しいイメージなのかもしれません。しかし、近隣に目を向けてみると、犬山には「博物館明治村」、長久手の「トヨタ博物館」、名古屋には「リニア鉄道館」など、親しみをもって見学したり、体験することのできる博物館もあります。

さて、大学にも博物館があることをみなさんは知っているでしょうか。全国のすべての大学というわけではありませんが、大学博物館によっては、国宝級、重要文化財級の資料が所蔵されていたりします。近隣の大学では、名古屋大学博物館、南山大学人類学博物館などはその所蔵資料の豊富さや学術的価値の高さでも有名です。いわゆる文系的な資料だけでなく、自然科学に関する資料もたくさん収蔵されています。

7月12日（土）までは名古屋大学と南山大学の共催で「人類史上画期的な石器一名大の 아프리카考古学と南山大の旧石器コレクション」という企画展も開かれています。“博物館を見学する”というところから、自分の興味・関心をひもとき、進路について考えてみるのはどうでしょうか。さまざまな資料を見ると、人文科学的な見地、社会科学、生活科学、自然科学……。いろんな観点から考察することができます。単に大学見学やオープンキャンパスに参加するだけではなく、大学博物館をじっくり見学してみるのも一興です。

3年生は、今月末、社会見学で京都へ行きます。京都大学博物館、同志社大学（建物自体に文化的価値を感じるといいます）、立命館大学国際平和ミュージアムで足を止めてみるのはどうでしょう。（文責 大島）

○理系の窓○

昨年から、掘り出し物の大学を発掘というコンセプトで連載を続けて、もう一年が経ちました。書いている本人が言うのもなんですが、ご好評を頂いております。

しかし、日本国内には非常に多くの大学、学部学科があり、この紙面で紹介出来るのは、ほんの一部。皆さん一人一人が本気になって自分にとっての掘り出しものを探せば、もっと良い情報が得られるでしょう。しかし、「そんなお宝情報を探すにはどうしたらいいの?」と、困ってしまいますね。本日は“宝の地図”のご紹介です。

道具と言うのは全て“使いよう”なのですが、みんなが頻繁に利用しているインターネットですが、意外と有効に活用出来てなかったりするんですよ。興味のある事柄があれば、「〇〇が学べる大学」等の形で検索をかければ、意外とあっさりお宝サイトが見つかるのです。

例えば「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」（2013年度版が最新）という、愛知教育大学の沢教授がまとめたサイトは、日本全国の国公立・私立大学の中で宇宙について学べる大学と、その専門性の度合いなどを独自調査でまとめています。「何故に教育大学の先生が?」と思うかもしれませんが、実は愛知教育大学は「教員養成課程」のほか「現代学芸課程」を設置しており、その中に宇宙・物質科学専攻があるのです。知らなかったでしょう?

その他「日本のロボット研究室」という日本ロボット学会が作成しているサイトでも、日本中の、ロボットに関する研究室をその内容と共に紹介しています。ネットの情報を鵜呑みにしてはいけませんが、進路学習の出発点にはこのようなサイトを使うと効率が良いですよ。

特に工学部は大学毎に扱う研究の内容が全然違ったりしますからね。進路学習頑張ってください。（文責：鈴木 貴博）

☑総合学習の扉☑

第1回 総合学習の扉をたたいてみよう!

2年生の月曜7限に総合学習という時間があります。この時間で、みなさんは何を学ぶと思いますか? 今だと「修学旅行について!」や「よくわからん」という回答になりそうです。そこで、このなぞにつつまれている総合学習とは何か? について簡単に紹介していこうと思います。

1、何を学ぶのか?

総合学習では、大学・専門学校等の「ゼミ」での学びや研究の先取りをします。ゼミとは少人数で行われる討論・演習・実験の共同研究による授業のことです。

大事なことは、本やインターネットで調べたことをまとめる(要点)だけでなく、自分なりに拘りたい箇所や疑問に思う箇所(論点)を取り上げ各自の考え(仮説)を発表するということです。したがって、その「レジュメ」にも上記の3つの要素が欠かせません。さらに、仲間や先生と討論をすることでこの仮説の質を高める(検証)のもゼミの大切な役割です。大学の学び方を学び、進路検証することが最大の魅力です。

ということで簡単にまとめると、総合学習ではゼミという少人数の場であなたの大学等で研究したいことを先取りして行い、本当に自分の進路はここで良いのか? と自分に語りかけ、検証する場です。本格的に取り組むようになるのは修学旅行終了後の6月ぐらいになります。それまでに、詳しい内容は徐々に説明していこうと思います。今のうちから何を学びたいのか考えておいてください! (文責 波勢)

○Book Review○

『認知症と長寿社会』（信濃毎日新聞取材班、講談社現代新書、2010）

「日本一の長寿県は?」と訊かれて答えられますか。答えは「長野県」です。では、「なぜ長野県は長寿なの?」と訊かれたらその理由を答えられますか。「自然に恵まれているから」とか、「農作業などで高齢者がよく身体を動かすから」などといった答えが返ってきますが、地域での健康増進活動が大きく影響していることが注目されています。無医村や医師・看護師不足という逆境の中で、早くから予防医療に力を入れ成功を収めたことがこの結果に繋がったと言われています。

しかし、長寿県であるということは当然、高齢者に関わる課題が多いということの意味しています。その一つが「認知症」の問題です。この本は信濃毎日新聞に掲載された認知症に関わるルポルタージュです。認知症の高齢者を抱える家族、施設、病院、地域のそれぞれの現状を、地方紙ならではの視点で取材しています。介護施設で熱心に働く若い職員の突然の死、山梨県から月に2週間の遠距離介護を続ける家族、など認知症の人を取り巻く厳しい状況が真に迫ってきます。

「ピンピンコロリ」。老いても他人に頼らず死ぬ時には苦しまず迷惑をかけず亡くなるという「自立」の発想は現実には多くが幻想に過ぎない。そうだとしたら、「誰かの世話になって生きていく」「互いに支え合って生きていく」という当たり前の社会のしくみや関係性が不可欠になってくるはず。人が必ず迎える老いを一人一人かつ社会全体の問題として真剣に考えなければならぬと痛感させる一冊です。(文責：今井雅)

